【事業名】屋久島における国内希少野生植物種の調査と保全活動 (鹿児島県熊毛郡屋久島町) 【団体名】屋久島照葉樹林ネットワーク

事業の背景・目的

・実績報告書(別紙10-3)を基に、事業の背景や目的、必要性、地域における生物多様性保全上の課題等を簡潔に記載(300)文字以内 屋久島では、国立公園をはじめとした保護区域が高標高山岳地帯を中心に設定されているが、低地の照葉樹林帯は西部地域を除いて保護措置がとられておらず、 わずかに残された原生林が森林開発等によって減少している。一方、このような原生林では菌従属栄養植物をはじめとした新種、固有種の発見が相次ぎ、低地照 葉樹林の生物多様性保全の重要性が高まっている。本事業では、低地照葉樹林における国内希少種及びその候補種等の分布状況調査等を行い、原生的な低地照葉 樹林の種多様性を明らかにし、具体的な保全対策の道筋を明確にしていくことを目的とする。

事業の内容

・実績報告書(別紙10-3)を基に、実施した事業結果の概要を簡潔に記載。

ア国内希少野生植物種の自生地調査事業

・これまでの調査で明らかにされたヤクシマソウ (国内指定種)ヤクシマヤツシロラン (同)タブガワヤツシロラン (同)ヤクノヒナホシ (環境省RDBIA類) 等の分布調査とモ

ニタリングを行う。これらの自生地は極めて限られており、多く低地の河川流域の照葉樹林内にあり、近接する人工林の伐採や林道・作業道の開設等の施業が進行しており生息環境が脅かされている。



イ自生地保全事業

・調査で新たに発見された国内希少野 生植物種(カンラン、タカツルラン

等)にシカ防除柵を 設置した。これまで に設置されたシカ防 除柵の点検・補修・ モニタリングを行っ た。・



ウ普及啓発事業

・屋久島学ソサエティで発表や小規模な講演会、

自生地観察会を実施した。 ・林野庁九州森林管理局 が要望書の提出を踏まえ、 最重要河川である椨川流 域、一湊川流域の現地視 察を行った際には、屋久 島照葉樹林ネットワーク のメンバーが2日間に渡



って現地を案内し、状況説明や意見交換を行った。

得られた成果

・実績報告書(別紙10-3)を基に、・事業の成果、活動継続の見通し、事業終了後の展開等を簡潔に記載(400文字以内) 1年目の集中的な希少種調査の実績を踏まえ2年目に専門家を交えた「保護区域等検討会」を開催し、3年目には、環境省・林野庁・鹿児島県・屋久島町へ「高い植物多様性を擁する屋久島の低地照葉樹林の環境保全を求める要望書」の提出が実現した。要望書は「日本生態学会」・「日本植物分類学会」・「日本自然保護協会」とも連携して合同で提出。それぞれの省庁より真摯な回答が得られた。

その後「九州森林管理局」の現地視察もあり保護林指定へ向けた取り組みが始まっている。同様に環境省においても関係行 政機関を網羅した(オンライン活用)会議を開き、希少種の自生情報を抽出して森林施業と保全地域の整合性を取るべく情報 交換と認識を共有する場が設けられたことは画期的な成果である。今年度申請の新規事業においては要望書提出の4団体も含め 保護と林業施業の両立のための共通理解を深め、貴重な屋久島の低地照葉樹林の保護方策を提言する仕組みを創設する

